

では1割弱。校長の女性比率は、小学校で16.5%、中学校、高校で3.8%、大学では8%ということです。子どもにすれば、「小さな子と遊ぶのは女の人が向いていて、難しいことを教えるのは男の人が向いている。リーダーは男の人が多く、女の人もリーダーになってもいいけどならないのが普通だ」というメッセージを受け取るようになります。

また、班別学習の結果を発表する授業で、発表するのは男子、女子は横に立っているだけでもよしとされる、あるいは、算数の成績が良くないとき、男子に対しては努力して結果を出すように求めるのに、女子には「成績は良くないが真面目だ」という好意的な評価をくだす、といった教師の男子と女子に対する姿勢の違いも随所に見られます。

このように、学校には公式のカリキュラム（教育内容）のほかに、子どもに大きな影響を与えるもう一つのカリキュラム（隠れたカリキュラム）が存在するのです。この隠れたカリキュラムによってジェンダーが再生産されているとわかっていいでしょう。

生き方につながる進路指導

近年の高校生の就職難、フリーター希望の生徒の増加など、高校生の進路にかつてない変化が起こり、働くことにつながる教育が改めて注目されています。

進路選択の際、親が男の子には「将来どうすんの。しっかりせんとアカンよ」と言い、女の子には「そこまでがんばらなくてもええよ。結婚できんようになるよ」と保護すると、善意の親心が女の子の意欲を低下させ、能力を伸ばしたり、自らを鍛えたりする機会を奪ってしまいます。

学校での進路指導でも、入学困難な学校、男女比率の大きく異なる職種、リスクの高い進路を希望した場合、教師が男女に対してまったく同じアドバイスをするとはいりません。

ところが、スウェーデンの勤労体験学習では、教師が、男子にはケアの仕事を、女子にはテクノロジーの仕事を体験することを勧めているそうです。ジェンダーにとらわれない多様な働き方に子どもたちの目を向けさせるためでしょう。自動車工場を視察に行った人が「女子にもできるんですか」とたずねた時、工場の人「もちろんできます。できないことをできるようにするのが文明の力です」と答えたそうです。

自ら切り開く人生を応援しよう

子どもたちには、様々な人生観に基づく多様な働き方があること、そして、働くことにはつらいこともあるが、喜びを感じられる楽しいことでもあるというこ

とを知ってもらいたいと思います。そのためには、学校教育も含め、私たち大人は、知らないうちに子どもたちに伝えてしまっているジェンダー・メッセージに気づき、見直さなければなりません。男の子も女の子も、自らの人生を自分で切り開いていけるよう応援したいものです。

参加者の感想から

- ・男らしさ、女らしさっていったい何なのか、子どもと一緒に考えていきたいと思いました。子どもには性別に関係なく、「自分は何がしたいのか」を見つけてもらいたいと思いました。
- ・私は、いわゆる専業主婦です。経済力を持っていないぶん、子どもたちに対して「善意に基づくジェンダーの再生産」をしていると思いました。人間は発達可能性が大きいので、今後、「女の子はこんなものだ」とか「男の子だから仕方ない」とかいうふう子どもを限定しないで接していきたいです。



10/26

フレッシュ丸亀秋まつりで ジェンダー・チェック

肌寒い天候にもかかわらず、総合スポーツセンターはフレッシュ丸亀秋まつりを楽しむ市民でいっぱいです。ゆめネットワークとかがわ男女共同参画推進員が発発のための「ジェンダー・チェック」をしています。



会場を訪れ、秋まつりを楽しむ市民の方々と日常生活の中のジェンダーについて考えてみました。用意した200枚の「ジェンダー・チェック」は足りないくらいでした。小学生から高齢の方まで、女性も男性も、日ごろ感じているジェンダーについて楽しく話しながら考えました。

男女共同参画って何のこと？という市民に一人でも多く知っていただくためにも、様々な機会にいろいろな方法で広報することが大切だなあと感じます。

ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

香川県男女共同参画審議会の傍聴に行ってきました

2月12日、今年度2回目の香川県男女共同参画審議会が香川県庁で開催されました。一般公募で選ばれた委員の一人が、ゆめネットワークのメンバーである岡本恵子さんということもあって、傍聴に行ってきました。

委員からの鋭い質問

審議会では委員全員が発言し、様々な分野に渡っての質問や意見が出されました。

岡本さんは、全国でもワースト1といわれている県内市町における行動計画策定状況への対策について質問。「各市町での今後の策定予定や、策定されない原因を調査・分析できているのか。策定に前向きな市町への支援を何か考えているのか。前向きでない市町へはどのような対策を取っているのか。また、教育については、「教育関係者への研修や意識啓発事業が、学校現場で生かされていないのではないか。成果を問うためのきめ細かな対応が必要」とも述べました。

行動計画について県からは、「7市町が15年度中の策定を、3町が16年度中の策定を予定している」と回答が



ありました。そして、この問題には首長の意識が大きくかかわってくるので、県としても首長への働きかけの必要性を認識しているようでした。

審議会の在り方に疑問

審議も終わりがけたころ、委員長が傍聴者からの意見を促しました。直ちに幾人もの人が手を挙げ、発言しました。「1時間半の審議時間では短すぎる。もっと長くしてほしい」など。

岡本さんも最後に、「今回は資料が当日配付だったが、事前に渡してほしい」と発言していました。委員のみなさんが事前に資料を手にしていたら、もっと突っ込んだ意見が交わされただろうに、と残念です。県からは、「次回から何とかする」との回答があったので、改善されることを期待したいと思います。

丸亀市の男女共同参画プランは？

平成10年に策定された「丸亀市男女共同参画プラン」は、今年度から来年度にかけて見直し作業が行われています。現在、プランの素案を、市民からなる「プラン検討委員会」が練っており、今月末には市へ提出されるそうです。そこで、検討委員会の会長を務めている酒井明世さんに質問してみました。

——検討委員会はどのような人で構成されているのですか。

前回のプラン策定にかかわった人を含む10人で構成されています。有識者や市民グループの代表者などで、男性は3人です。また、今回の検討委員会会議の特徴は、市の中堅職員8人も、検討委員会のメンバーと一緒に協議していることです。ともすれば、市民と行政の関係は、市民がただうなずくだけであったり、逆に行政を責める一方であったりしがちですが、今回の素案づくりの場は、「市民と行政のパートナーシップ」の良い例になるのではないかと考えています。

——素案をつくるために、どれくらいの時間をかけているのですか。

検討委員会は昨年の9月に発足したので、約6か月です。2年間かけた前回の素案づくりに比べると、半

- ゆめネットワークセンター
- 1/25 ●丸亀市まちづくり女性会議OG会
例会「ドメスティック・バイオレンスについて話し合いませんか」
 - まちづくりグループまるみな
フリートーク「絵本とジェンダー」
 - 2/8 ●ウイングL
グローバルセミナー
「上海留学から得たもの」
 - 2/20 ●丸亀市消費者モニター
講演会「食品表示について」
 - 3/5 ●ウイングL
女性友好の翼 帰国報告会

年という期間は短すぎるくらいです。

——男女共同参画社会づくりの目指すものは何ですか。

一部の人に誤解や反対運動も見られるようですが、男女共同参画社会づくりは、女性を囷に乗せるためのものでも、家庭崩壊をもたらすものでもありません。だれもが生きやすい社会を目指すものです。「住むなら丸亀」と、市民や市外の人からいわれるまちになるよう、素案作成—プラン策定—施策実施と、みなさんの力と声を寄せ合っていきましょう。